

生かそう!!「シニアパワー」 ～まだまだ社会に役立つために～

浜田市立雲城公民館

1 雲城公民館の概要

浜田市金城自治区における雲城地区の高齢化率は、新興住宅地ができていることもあり、全体では 28%の比較的若い世代の多い地域である。雲城小学校の児童数は 151 人を、金城中学校の生徒数は 106 人を数え、公民館エリアの人口は約 2,500 人と恵まれている。しかし、新興住宅を含む地域以外は少子高齢化が進展し、高齢化率 35%を超える地域となっており、それも年々上がっている。そうした中で、高齢者はまだまだ社会の一員として貢献し続けることが重要になっている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

雲城地域は 3 地区があり、それぞれに 3 つの高齢者クラブがある。それら上来原老人クラブ（寿光会）、下来原老人クラブ（親和会）、七条高壮年クラブ（寿楽会）の会長、副会長等を中心に話し合いを進め、できるだけ生涯現役であり続けるという目的を達成するための対策を練った。



3 会長の話し合い

こうした取組を通して高齢者が必要とされ、自信と生きがいを持って生活でき、さらには社会から大切にされるようにしたいと考えた。

(2) 具体的な取組

ア 元気な活力ある高齢者であり続けるための取組

(ア) 公民館の学習会への参加

H24年度「ふるさと学習会」は、古事記1300年に因んで「古事記と石見神楽」をテーマとして実施した。石見神楽の盛んなこの地域では多くの高齢者が大きな関心を持って学習会に参加した。



古事記の学習会



古事記と石見神楽の学習会

(イ) 神話博しまねや人麻呂を訪ねる会への参加

古事記の世界や万葉集の人麻呂について学習した後、実際に「神話博しまね」や「柿本人麻呂」を訪ねる現地学習を行った。



古代出雲歴史博物館



人麻呂ゆかりの地 大崎鼻

(ウ) ワイワイ運動教室への参加

健康こそ社会に役立つための第一条件である。介護予防を目的としてウォーキングポール、ボール、ゴムを利用した運動教室への参加を促した。



ワイワイ運動教室

イ 雲城地区3高齢者クラブの連携を図る取組

これまでなかった3高齢者クラブ合同の取組をすることにした。

(ア) 3高齢者クラブ合同事業の開催

合同グラウンドゴルフ大会を実施し、会員同士の意思疎通を図る取組をした。グラウンドゴルフ場はクラブ会員の手作りで、自然が多く残され、野趣味豊かなところである。



グラウンドゴルフ大会



和気藹々の語り合い

(イ) 異世代交流事業の開催

キーワードは“子ども”と定め、子どもを中心の活動を考えることにした。冬休み期間を利用して児童クラブと室内グラウンドゴルフで交流会を行った。



子どもはすぐに上達

ウ 雲城まちづくり委員会への協力

(ア) 雲城名産品開発

雲城名産品開発として「おやき」をつくることになった。知識と経験を存分に発揮するときである。試行錯誤を重ね、雲城の伝統に加えて新製品もでき、金城町「さざんか祭り」では販売もした。



おやき試作に挑戦

エ 学校支援地域本部事業への参加

(ア) 雲城小学校への協力

雲城小学校は「ふるさと学習」の一環として校区をめぐる「なかよし遠足」を実施してきている。今年は上来原高齢者クラブ会員が説明ボランティアを引き受けた。

その他「ミシン」「昔あそび」など、学校の要請を受け授業のお手伝いをした。



説明を聞く子どもたち

(イ) 金城中学校への協力

金城中学校は1、2年生の生徒を金城自治区の6公民館に振り分けて「ふるさと学習」を実施した。雲城地域の歴史を訪ねた後、中学生と高齢者の話し合いの時間を持った。



説明を聞く中学生



地域の人との話し合い

オ NPO法人「かなぎの里山」との連携活動

雲城地区下来原にNPO法人「かなぎの里山」により、総面積63,000㎡の里山づくりが進められている。完成後は多くの事業が計画されており、子どもと大人、高齢者の交流の場として連携活動が考えられている。

(ア) 桜の植樹

里山40,000㎡に400本の桜を植える計画があり、今年100本

を植えつけた。桜の植樹は子ども中心にさせ、親と高齢者がそれを援助した。植えつけた桜には子どもの名前を付け、今後の肥料やりなど管理責任を持ちながら成長を見守る。

まず、木の伐採された山に桜を植える穴を掘り、歩き安いうように階段を作るなどの作業をした。



植樹の穴掘り



階段づくり

次いで、子どもたちと「神代曙」という品種の桜を植え、名札を付けた。



植樹する親子



名札を付ける親子

3 事業の成果と課題

(1) 成果

- ・ 雲城地区3高齢者クラブが協力していく体制ができた。
- ・ 子どもと触れ合い、子どもの成育環境づくりに協力したいと願う気持ちができる。
- ・ 桜の植樹を通して、子どもたちと未来を共有できた。
- ・ まちづくりに自分達の知識と経験が役立つことを知った。
- ・ 学習会を通じてふるさとのよさを再認識し、学ぶ意欲が湧いた。

(2) 課題

- ・ 友愛活動が不十分だった。具体的な展開をしていく必要がある。
- ・ 若干の加入者はあったが、高齢者クラブ員増強は大きな課題。

4 今後の方向性

NPO 法人「かなぎの里山」事業に協力しながら、子どもたちの成育環境づくりと未来への希望を育みたい。